

研究課題名	黒毛和種における繁殖性向上を目指した飼料給与体系の確立		
予算区分	県単 (1,982千円)	担 当	飼養技術研究室 生産性向上研究グループ
研究期間	継 続 (平成25～27年度)	協 力 関 係	
研究目的	畜産経営において、繁殖成績の低下による農家への影響は大きく、畜産農家の経営を改善するためには、その原因究明と対策の確立は急務である。 そこで、繁殖性と関連のある飼料成分や血液成分等の検査項目を明らかにし、繁殖性の向上が期待できる簡易で効率的な飼料給与方法を確立する。		
全体計画	1 繁殖性に影響を及ぼす可能性がある血液成分（血中アンモニア濃度、血糖値、BUN：血中尿素態窒素等）を検査し、その成分と関連のある飼料成分を調査する。 2 1の調査結果より、相関が見られた飼料成分をコントロールすることで、繁殖成績向上が期待できる飼料給与体系を確立する。		
研究対象	肉用牛	専 門 部 門	繁殖管理
<p>○ 本年度試験のねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 飼料成分の変更と受胎率の相関性を調査する。 現地実証試験を実施し、受胎率の改善を確認する。 これまでの成績により受胎牛に多く見られたGluが高くBUNが低くなるような飼料給与方法を調査し、繁殖成績の変化を確認する。 <p>試験1 飼料成分の変更と受胎率の相関性調査 (時 期) 平成27年4～28年1月 (試験の内容) 摂取蛋白とエネルギーの比を調整した飼料を給与し、受胎率との相関性を調査する。</p> <p>試験2 現地実証試験 (時 期) 平成27年9～28年1月 (試験の内容) 試験1の結果で受胎率向上効果が得られた飼料給与方法による受胎率の変化を現地農場で実証する。</p> <p>○ 前年度までの成果</p> <p>血液成分値と各個体毎の繁殖成績との相関調査</p> <ol style="list-style-type: none"> 分娩後4週間～人工授精前後までの血糖値、BUN及びその比率が繁殖成績と相関があることが示唆された。 受胎率の向上には、人工授精以前2週間において、血中NH₃、BUNが低く、血糖値が高いことと関連することが示唆された。 血中成分のNH₃とBUNは、飼料の変更により直後に変動する。 			

黒毛和種における繁殖性向上を 目指した飼料給与体系の確立

畜産農家の生産性向上のためには低コスト化、省力化、繁殖性の向上が重要

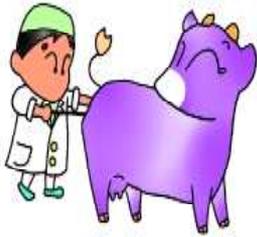
【背景】 今までの繁殖成績向上対策

- ・確実な発情発見
- ・早期母子分離による初回発情の早期化
- ・養分充足率の調整

しかし・・・

岡山県酪肉近代化計画では、
現在の分娩間隔 13.8ヶ月
目標の " 12.5ヶ月
新たな対策が必要！

更なる成績向上のために



一般農家が行う人工授精による繁殖技術としての応用を検討

受精卵の採卵・移植において
・血中アンモニア・BUN・血糖
・飼料成分(NFC/DIP)
が成績に影響するとの報告

繁殖性と相関のある飼料成分や血液成分等の検査項目を明らかにし、繁殖性の向上に繋がる簡易で効果的な飼料給与方法を確立する。

【実施内容】



【成果の活用】

- 牛の飼料や血液検査で、繁殖性に関する栄養状態を容易に把握できる。
- 農家取り組みやすい繁殖性向上対策。
- 県内家畜改良の促進に寄与。